



【第3回学校運営協議会】

令和2年2月14日（金）に第3回学校運営協議会を開催しました。全体協議の前半は、今年度の各ワーキンググループでの協議に基づいた成果と課題、次年度における学校の取組と学校運営協議会の年間計画について話し合いました。後半では、今年度の学校評価について、学校アンケート結果の分析と各分掌の取組について説明し、意見交換が行われました。

令和元年度 秋田県立矢島高等学校 第3回学校運営協議会議事録

1 日時・場所

令和2年2月14日（金） 午後2時30分から午後4時30分まで
矢島高等学校 大会議室

2 出席者

(1) 運営委員

大井 建史	【天寿酒造株式会社代表取締役社長】
庄司 嘉政	【元矢島高等学校PTA会長、TDK秋田（株）勤務】
佐々木正純	【元矢島中学校PTA会長、法華宗寿慶寺住職】
松田 訓	【本海獅子舞番楽伝承者協議会会長、矢島高等学校同窓会前会長】
佐藤 晃一	【由利本荘市教委CS協働コーディネーター、元矢島総合支所長】
真坂 伸子	【矢島保育園園長】
小松 茂樹	【矢島高等学校同窓会顧問】
菅原 賢一	【矢島小支援地域本部コーディネーター】
佐藤真理子	【人権擁護委員】
茂木 好文	【矢島高等学校同窓会長】
藤原 茂樹	【矢島高等学校PTA会長】
熊澤 耕生	【矢島高等学校長】

※ 茂木雅人委員、藤井充晴委員は欠席

(2) 矢島高等学校〔事務局〕

木村実樹夫	【教頭】
高田宇一郎	【事務長】
石澤 宏基	【教諭】
木村ふさ子	【教諭】
菅原 一哉	【教諭】
土田 伸也	【教諭】
渡邊 舞子	【実習助手】

※学校評価より出席

鎌田 勉	【教諭】
尾留川 徹	【教諭】
黒木 育子	【教諭】
大石 敏孝	【教諭】
佐藤 俊治	【教諭】

3 次第

(1) 開会 (事務局 木村教頭)

(2) 学校運営協議会会長あいさつ (大井会長)

(3) 校長あいさつ

(4) 出席者紹介

(5) 協議 (進行 大井会長)

①各WGの成果、課題、次年度の取り組みについて：熊澤校長

※資料P 1～P 3 参照

※総合的な探究の時間（番楽の計画など）はP 4～P 5 参照

協議内容は、「4 議事録」のとおり

②次年度の協議会運営について：熊澤校長

年間スケジュールは2年間やってきて、流れは定着してきた。次年度も年3回、今年とほぼ同じスケジュールで協議会を行い、それをつなぐ形で各WGをお願いしたい。

3回の協議会の実施日時を最初に組み込んでいたほうがよいという意見があったが、1回目は県からの委員の任命書が出来ていないと開催できない。出来るとすれば、1回目の会議で2回目と3回目の日程調整は可能である。

WGのテーマについては、同じテーマをこの生徒数の状況でどうするかということを継続して協議するのがいいのではと考えている。もし変える必要がある場合は、次年度の1回目の会で協議するということになる。

(6) 学校評価

①各分掌の取組・学校アンケート結果の説明：木村教頭、各分掌主任

意見交換は、「5 議事録」のとおり

(7) 諸連絡

学校評価用紙の提出についてのお願い (事務局 木村教頭)

(8) 閉会 (事務局 木村教頭)

4 議事録

【茂木委員】

まい一れの講演は全員行ったのか。感想はどうだったか。伝統芸能についての生徒の反応を聞かせてもらいたい。

【石澤教諭】

坂之下番楽の鳥舞を演じていた。初めて見た生徒が多く、動きが激しいため感動していた。北秋田市の根子番楽では刃を合わせる場面で火花が飛ぶシーンに生徒はかなり驚いていた。他の地域にも番楽があり、その本物を見ることができてよかったと生徒の感想にあった。

【熊澤校長】

舞台上にいたので、生徒の表情をみることができた。真剣に見ていた。本物は違うなと感じた。2年生は矢高祭で演じた後だったし、1年生は来年やるんだなという思いで見ているのではと思う。

【佐藤委員】

鳥海小中学校でも伝統芸能を取り上げ、地域を盛り上げる取組を行っている。鳥海小中学校の取組と矢島高校の番楽の取組というのは、演目内容の違いはあるが共通する理念があると思う。

矢島高校生2人から年賀状をいただいた。就職内定した生徒から面接指導へのお礼だった。礼儀正しい対応に感心した。

由利本荘市の全小中学校でコミュニティ・スクールがスタートして今年で5年目。活動取組がマンネリ化してきているとか教師の負担が大きいといったやらされ感の問題が出てきている。過去を振り返りコミュニティ・スクールの原点を再確認してこれからどう展開していくか。校長先生の話にもあったように新たな刺激を取り入れて発展していく必要がある。

【庄司副会長】

広報活動についてフェイスブックなどは誰が中止となって運営しているのか。

【土田教諭】

商業科の課題研究の授業の中で生徒が運営している。フェイスブックで商品開発であるとか地域の観光名所を取り上げながら町の認知度を高めていこうということでやってきた。生徒が授業中に記事を作成し公表していく流れである。ツイッターが加わったのは、若い世代向けにツイッターの運用を始めた。生徒の話だとツイッターも古いということなので、インスタグラムといったものも取り入れていく必要があるかもしれない。

【庄司副会長】

フォロワーはどれくらいか。

【土田教諭】

フェイスブックは67名。ツイッターは26名。当初フェイスブックで100名のフォロワーを目指していた。順調だったが伸び悩んでいる。お金（広告費）を出して宣伝もできるのだが、お金を運用することもできない。

【庄司副会長】

SNSで拡散させることが宣伝になる。てこ入れする予定はあるか。

【土田教諭】

ビジネスの授業の中でSNSで訴えるチラシを作り、販売実習や市場調査で配っている。1000人以上の町民に見てもらっていると思うが、1名しかフォロワーとなっていない。この地域に対して知ってもらいたいことであるが、厳しいと感じている。

【庄司副会長】

海外で話題になって逆輸入というかたちになる場合もある。

WG2で由利高原鉄道の協力ということだが、コンビニで金足農業のスイーツのように矢島高校のコーナーを作って商品販売を含めたPRが出来るのでないか。由利高原鉄道は乗客だけだが、コンビニは不特定多数にPRできる。

【大井会長】

販売活動において、SNS登録してくれたら10円安くするとか、たくさん売れなくても話題となったときに継続して提供できる店舗、例えばやさい王国とか菜らんどで実施できるかどうかという交渉はやってみる価値はある。コンビニでなくても可能だ。

YBP等を理解して前期選抜に出願した生徒がいたことは私も大きいことだと思う。生徒は少なくなってきているが、単純に計算すると生徒3人に1人の先生が指導できる環境である。生徒ひとりひとりに寄り添える部分を全面に出して、その希望がどのくらい叶えられるか、生徒がどのくらい充実感を持ったということを発信できるようにやっていけば今後の矢島高校の価値に大きくつながっていくのではないか。

5 議事録

【大井会長】

アンケートの資料から特定の学年の保護者のいじめ不登校の指導対策の評価が低い。

【熊澤校長】

いじめに関する本校の取組は、県からの調査が年1回、学校独自に年3回の意識調査を行って、うち2回はその後2週間の面接旬間を設けて、もし訴えがあれば聞き取りを行っている。県の方針は、いじめの相談を受けたらまず県に一報を入れる。いじめかどうかの判断はその後でいい。訴えがあったらすぐ報告し、県と情報を取り合いながら対応している。本校の場合、目で見てすぐわかるいじめは少ない。悪口を言った、言われた、ネットに何か書き込みがあったというのがほとんどである。悪口の直接のやりとりは少ない。訴えがあった場合は、両者から聞き取りをしてそれを突き合わせていき、事実の正確な把握に基づいて指導するようにしている。今後もさらに丁寧な対応を心がけていきたい。

【佐藤委員】

保護者の自由記述をみると評価が低い記述もある。なぜこういうことが書かれたか推察する必要がある。先生方の記述にも留意し、分析検討が必要だ。

【WG1（ボランティア・生徒会）】

（成果）

- ◎少ない生徒数ながら、多くのボランティアに取り組むことができた。
- ◎HPを通じての広報活動は以前よりも充実した。
- ◎年度初めの町内会長の集まりでボランティアの年間計画表を配付し、本校の取組をPRすることができた。

（課題）

- ①生徒数が更に減少した場合の対応
- ②ボランティアの取組の広報活動の更なる充実
- ③若干ではあるが、やらされ感のある生徒がいた。地域貢献への更なる意識付けが必要。矢高生が、地元・矢島でボランティアすることの意義を意識づけたい。

（次年度の取組）

- ①＊新しいことには手を出さない。現在の取組の内容を充実させ、深く掘り下げる体験活動を模索したい。生徒数の減少に伴い、生徒会・ボランティア部主体から学年主体に移行しつつある。
 - ＊鳥海探究での文化施設の見学の際は徒歩で移動しているが、往復の際にゴミ拾いを行うなど、ちょっとした機会にできる取組を増やしたい。
- ②＊矢島カップでは、プラカード担当が司会に紹介されていなかったもので、次回からは紹介してもらえるよう支所に依頼した。
 - ＊広報については SNS で Facebook を運用中だが、新たに12月から Twitter も運用を開始したので、それを軌道に乗せたい。
 - ＊市の広報と一緒に全戸に配布している学校広報誌「日新」の利用を考えたい。年度初めにボランティアの年間計画を掲載したり、ボランティアに取り組む日を「矢島高校地域貢献デー」（仮名）と名付けてあらかじめ予告するなどが考えられる。
- ③＊道徳教育の一環と捉え、事前・事後学習や振り返りを充実させて、意識を植え付けたい。

【WG 2（地域貢献・地域活性化）】

（成果）

- ◎やしまブランディングプロジェクト（YBP）の取組についての研究発表が、全国高等学校生徒商業研究発表大会秋田県大会で準優勝し、東北大会に出場できた。
- ◎地元企業とコラボしての商品開発、木工クラフトショップや地元のイベントへの参加等、YBP自体の活動を積極的に行うことができた。販売実習の一環として、売上金を、「くるみの里」「鳥海山にブナを植える会」に寄附することができた。

（課題）

- ①YBPの活動のPRを更に充実させる必要がある

（次年度の取組）

- ①＊由利高原鉄道の協力を仰ぐことを考えたい
 - ・駅舎や列車内に広告を掲示
 - ・特別列車のメニューにYBP開発商品を入れてもらう
- ＊YBPが賞をとった場合
 - ・矢島中が大会結果等を掲示してある場所に同様に掲示（「東北大会出場！」等）
 - ・栄光賞の一覧に付け加え、卒業式の要覧に添付する（出席者を通じてPR）
 - ・新聞社への取材依頼をより積極的に行う

【WG 3（伝統文化継承保存・自然環境保護）】

（成果）

- ◎「まいーれ」の11月定期公演を、芸術鑑賞教室として全校で鑑賞することができた。しかも生徒会長の舞を全校生徒・職員が鑑賞するという貴重な経験ができた。移動の際のバスの手配も次年度以降も市教委に協力してもらえる目処が立った。
- ◎職員対象ではあるが、矢島教育研究会の研修で鳥海ダムについての講話を聞くことができた。

（課題）

- ①番楽についての今後の取組
- ②鳥海ダムに関する学習をどのように取り入れるか

（次年度の取組）

- ①＊「地域学」での取組は「鳥海探究」に引き継ぐ。
 - ＊「まいーれ」定期公演の鑑賞は、今年度は日程や演目が決定するまで時間がかかり、実施の決定をするのがギリギリのタイミングであった。年間計画にあらかじめ入れるのは難しいので、様子見をしながら検討することになるだろう。実施の場合は、1・2年生全員を考えている。
- ②＊「鳥海探究」ではなく、1年次の必修科目「科学と人間生活」の中で扱う。災害に関する単元があるので、そこで扱うのが妥当である。
 - ＊地域の方の講話を実施する場合は、人選等を学校運営協議会にお願いしたい。
 - ＊学習内容を最終的にレポート等にまとめたものを、矢高祭で展示する。
 - ＊次期学習指導要領の必修科目「地理総合」でも防災に関する内容が予定されているので、将来的には分野を分けて2科目で扱うことも考えられる。

【総合的な探究の時間「鳥海探究」について】

（提言）

- 三年間を見通して、生徒が矢島に愛着をもてるような内容にしてほしい。
- 学校全体でどのような生徒を育てるためにどのような活動を目指すのか、しっかり確認した上で取り組んでいくことが必要。この鳥海探究を通して何を学ぶべきなのかを、学校、職員全体で意識共有することが大事ではないか。
- 次年度の入学者数が今年度並みになった場合の活動についても考慮すべき（予定しているコースが開設できるか等）

（年間計画案）

※別紙参照

【広報活動について（ここまでの内容と一部重複）】

（提言）

- 受検生増につなげるため、特に中学生向けの広報活動を充実させる必要がある。
- 本校のよさである「きめ細かい少人数教育」をもっとPRしてほしい。

（次年度の取組）

◎メディアを問わず積極的に広報活動を展開

- ・ホームページ
- ・Facebook 及び Twitter
- ・「日新」に「矢島高校の取組紹介コーナー」を新設
- ・由利高原鉄道とタイアップ
- ・「東北大会出場！」等の看板を設置する場所を検討
- ・栄光賞やその年の3年生の活躍内容をまとめたものを、卒業式要覧に添付（出席者を通じてPR）
- ・中学校における高校説明会資料と説明内容のバージョンアップ
- ・校長による中学校訪問の継続



まいーれ 11月定期公演より



山形テルサにて

令和2年度 秋田県立矢島高等学校 学校運営協議会年間計画（案）

月	学校運営協議会・WG	学校
4		・運営協議会委員候補決定（PTA総会后）
5		・運営協議会委員候補の略歴等を県教委に送付 ・委員任命書を県教委から受領（受付日）
6	（委員任命書の受領を受けて） 第1回学校運営協議会 ・授業参観 ・任命書交付 ・会長及び副会長選出 ・学校経営方針説明、承認 ・学校運営協議会年間計画説明、承認 ・各WG(代表者選出と1回目の日程調整)	*CS校内委員会（第1回に向けて） ◎第1回学校運営委員会に向けての打合せ（会長、校長、教頭）
7	各WG毎に ・協議	*CS校内委員会（WGに向けて）
8	・必要に応じて視察	
9		
10	第2回学校運営協議会 ・各WGの協議内容を全体で共有 ・各WGの協議	*CS校内委員会（第2回に向けて） ◎第2回学校運営委員会に向けての打合せ（会長、校長、教頭）
11		*CS校内委員会（WGの協議内容の確認と課題について）
12	各WG毎に ・取組、評価、課題、次年度への提言をまとめる	・協議会運営についてのアンケートを委員に送付
1		・WGの協議内容をもとに、今年度の取組、評価、課題、次年度への提言をまとめる ・次年度の協議会運営案を作成 *CS校内委員会（第3回に向けて） ・（下旬）分掌経営評価シート、学校評価アンケート等を委員に送付 ☆第2回秋田県CS連絡協議会 ◎第3回学校運営委員会に向けての打合せ（会長、副会長、校長、教頭）
2	第3回学校運営協議会 ・次年度の取組と協議会運営について ・学校評価について	
3		*（下旬）分掌経営評価シートを運営協議会委員に送付

※WGは取組の検証とそれに基づく改善についての協議がメイン。委員による視察の状況や、学校側による取組の評価、課題、次年度への提言等をもとに協議。